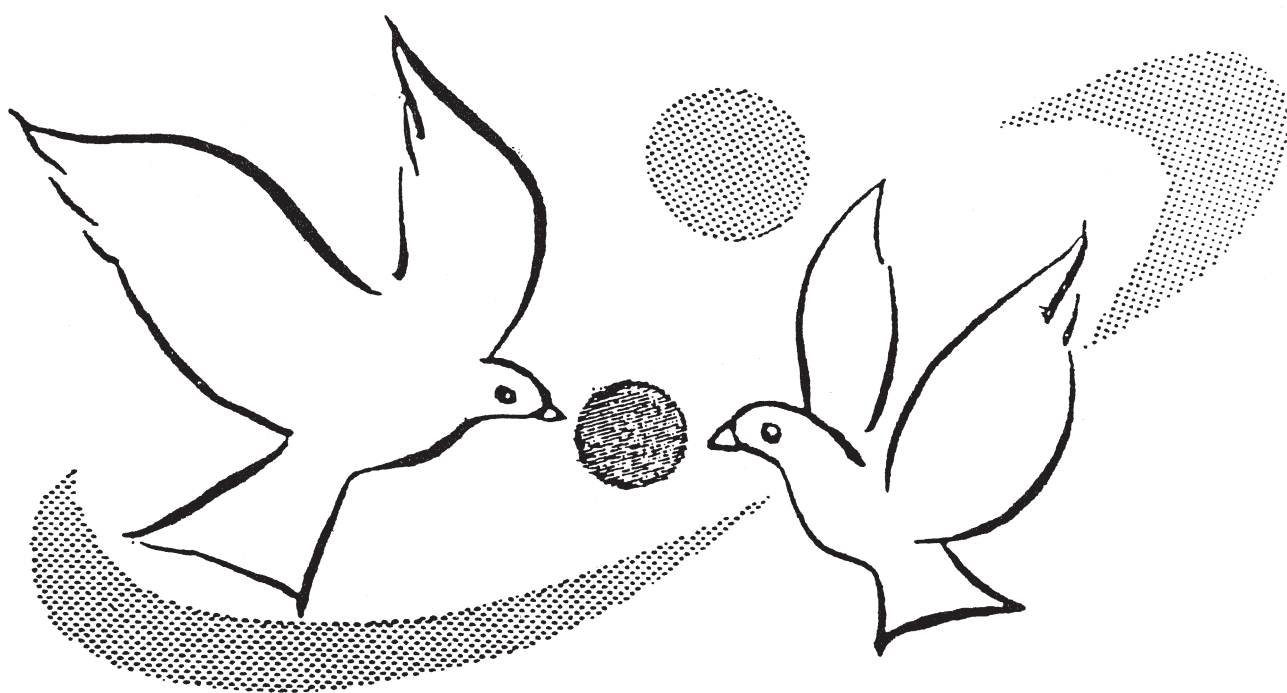


広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



—令和 6 年度—

(2024 年度)

城 陽 市



市の木 梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。
南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。



市の花 花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月7日市制施行10周年を記念し制定。
豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。



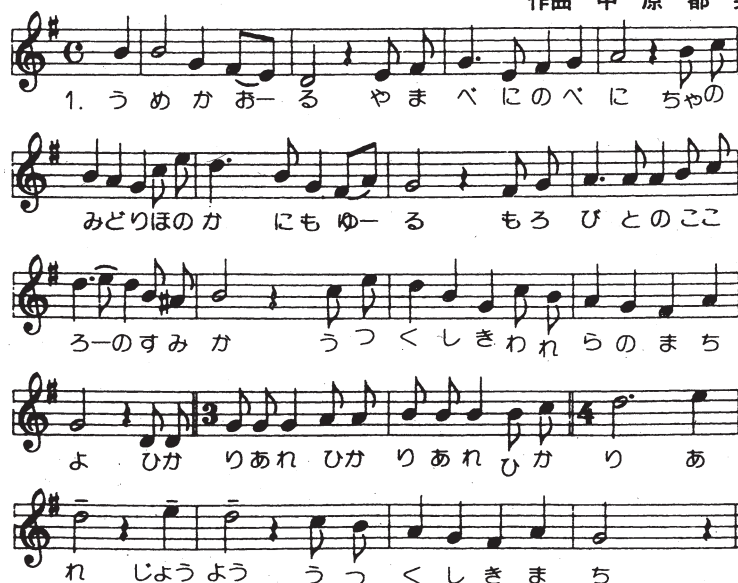
市の鳥 しらさぎ

平成19年（2007年）11月7日市制施行35周年を記念し制定。
『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城 陽 市 歌

明るくのびのびと

作詞 龍 村 孟 雄 男
作曲 中 原 都



2. 松あおき 鴻の巣山に
鳥啼きて 明るき陽ざし
こだまする 槌のひびきに
ひらけゆく われらのまちよ
栄あれ 栄あれ 栄あれ
城陽 ひらけゆくまち

3. 砂しろき 木津の流れに
黄金なす 稲穂のみのり
山の幸 野の幸さわに
ゆたかなる われらのまちよ
恵あれ 恵あれ 恵あれ
城陽 ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）2月15日制定
（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に伴い、
町歌を市歌とした）



城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行4周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）4月26日制定

（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に
伴い町章を市章とした。）

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

- 一、自然を生かし 美しい緑を育てましょう
- 一、教養を深め 豊かな文化をつくりましょう
- 一、心身を鍛え 働く喜びを大切にしましょう
- 一、隣人を愛し ふれあいの輪を広げましょう
- 一、秩序を守り やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（1982年）11月7日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言



城陽市役所庁舎 南玄関前

令和6年7月25日（木）

城陽市役所集合

出発（小学生6年生18名・中学生18名 合計36名）



昼食



平和記念資料館見学



被爆者講話（迫田勲氏）



宿泊施設 到着



入浴 夕食等



ミーティング

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消 灯

令和6年7月26日（金）

宿泊施設出発



広島平和記念公園到着

原爆ドーム・爆心地



原爆の子の像



原爆死没者慰霊碑



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島風お好み焼き体験（昼食）

広島市出発

城陽市役所帰着

解散



目次

広島に行つて学んだ事	久津川小学校 6年 小山 美結	1
千羽鶴に思いを込めて	古川 小学校 6年 河村 心音	1
原爆の恐ろしさ	古川 小学校 6年 牧 杏朱	2
戦争体験を聞いて	今池 小学校 6年 中澤 悟有	3
実際に広島に行つて	今池 小学校 6年 安中 瞬	4
広島に行つて	今池 小学校 6年 吉岡 璃子	5
戦争や原爆の恐ろしさ	寺田西小学校 6年 石原 花菜	5
被爆者が口をそろえて言うこと	寺田西小学校 6年 谷口 愛莉	6
戦争と平和について学んだ広島派遣	寺田西小学校 6年 服部 紗英	7
日常と非日常	寺田西小学校 6年 石橋 瞳	8
広島派遣団に参加して	寺田南小学校 6年 重松 昶太朗	9
広島に行つて	寺田南小学校 6年 谷 聡介	10
広島に行つて	寺田南小学校 6年 山川 敦士	11
これから私にできること	寺田南小学校 6年 末永 結彩	12
広島に行つて	寺田南小学校 6年 高田 ひなた	12
広島を訪れて	寺田南小学校 6年 中西 柚季	13
ヒロシマを知ることとはキノコ雲の下を知ること	深谷 小学校 6年 堀井 こゆき	14
	青谷 小学校 6年 三浦 ゆそら	15

知ること、伝えること

城陽中学校 1年 岡 睦月 16

この二日間を通して学んだこと

城陽中学校 1年 谷出ほのか 17

一生忘れられない誕生日

城陽中学校 1年 樋口百香 18

戦争が終わったらおうちに帰れるから：

城陽中学校 1年 松井杏詩 19

原爆の恐ろしさ

西城陽中学校 1年 中尾孝成 20

広島に行ってみて

東城陽中学校 1年 池田愛莉 21

原子爆弾の恐ろしさ

東城陽中学校 1年 岡田太一 22

広島に行つて

東城陽中学校 1年 芦田柚乃 23

広島で学んだこと

東城陽中学校 1年 桐 由依奈 24

戦争の悲劇と平和への思い

東城陽中学校 1年 鈴川千晴 24

世界の戦争の恐ろしさ

東城陽中学校 1年 中 悠楽花 25

戦争がもたらした恐ろしさ

奈良女子大学附属中等教育学校 1年 清水和花 26

広島派遣団に参加して

城陽中学校 2年 石原樹桔 27

広島に行つてみて感じた事

城陽中学校 2年 芹ヶ野将英 27

広島に行つて感じたこと

城陽中学校 2年 山内海風 28

平和だった日常の変化

城陽中学校 2年 大西莉緒 29

平和の種を花に

城陽中学校 2年 松浦花緒 30

広島に行つて

城陽中学校 2年 渡邊友麻 31

広島に行つて学んだ事

久津川小学校 6年 小山 美 結

私が広島派遣団に参加した理由は、戦争のことを身近に深く知りたいと思つたからです。その時は戦争の恐ろしさや平和の大切さが全然分かっていませんでした。

一日目は、平和記念資料館に行きました。そこでは原爆が落とされた時の様子や破れたりしている服などを見て、平和だった日常が一瞬にして消えさつたという事がとても怖くて驚きました。

そして被爆された方の講話を聴きました。私は実際には原爆の怖さは知らないけれど、お話を聞いている間にどんどん心が苦しくなりました。戦争がいかにやってはいけないことか、そして平和がいかに大切かということをお話を通じて知ることが出来ました。

夜のミーティングでは、それぞれが事前に作ってきた一本の千羽鶴を、班ごとにまとめて大きな千羽鶴にしました。そしてその千羽鶴に「どうかこの世の中から戦争がなくなりますように」と思いを込めて、メッセージを書きました。

二日目は、慰霊碑にお花を捧げ、原爆の子の像に千羽鶴を捧げました。とても暑い朝でしたが、原爆が落とされた日の朝もこんなふうに暑い朝だったのかなとふと思いました。

その後は原爆ドームを見に行きました。数年前に家族で広島へ来た時は修復工事をしていて、自分もまだ幼かった事もあり何となくしか覚えていませんでしたが、今回は工事も終わっていて、建物の形をはっきり見ることができました。

鉄骨のドーム型の丸い屋根がそのまま残っていて、原爆が落ちた時の状況が少しだけ分かつたような気がしました。保存していくのは大変だと思いますが、これからもずっと守り続けていってほしいです。

その後、爆心地も見に行きました。爆心地は現在は病院になっています。原爆がここで爆発したとは思えない平和な風景でした。

最後に追悼平和祈念館に行きました。祈念館では亡くなられた方のお名前や年齢などを調べることができ、図書館のようなどころには、当時の映像や原爆についての本がたくさんありました。

そしてスクリーンには被爆された方々のお話が映されていて、それを見てみると、昨日講話を聴いた時と同じようにやっぱり心が苦しくなりました。

私はこの二日間に体験した事を忘れることはないと思います。この旅で感じた平和の大切さを、広島派遣団に参加した一員としてこれから多くの人に伝えていきたいと思います。今回思い切つて参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

千羽鶴に思いを込めて

古川小学校 6年 河村 心 音

「戦争つて日本でも起きるのかな？」と、私がウクライナの戦場をテレビのニュースで見た時に、ふと感じ、疑問を抱くようになりました。ちょうどその頃に、広島派遣団の参加者募集の話を知り、

応募したのが今回のきっかけでした。

1日目の平和記念資料館では、自分たちが今いる日本で、本当に起きた出来事だったのかと、目を疑いたくなる写真や資料が沢山あり、正直、気持ちが悪くなりました。その中でも人の骨が山積みになった写真を見て、恐い、痛いなどを感じる事も出来ず、一瞬で沢山の人の命を奪ってしまった爆弾の残酷さや卑劣さに心が痛みました。

また、その後の被爆者のお話では、原爆は何の罪もない人たちが突然、幸せだった日常から、いとも簡単に命を奪われてしまい、何とか助かった人たちも、白血病や後遺症に苦しめられながら、死を目の前にして生きていかなければならない辛さを思うと、もう言葉では表せない胸の痛みと怒り、悲しみの気持ちが一気に込み上げて、原爆の恐ろしさを只々憎く感じました。

私たちに、話して下さった被爆者の方の思いを、私は心に刻み、二度とこのような地獄が起きないように、皆にも自分がこの原爆の恐ろしさを、伝えていかなければならないと深く感じました。

今回、広島派遣団に参加させて頂いて、広島の前爆の恐ろしさを知る事で、命の尊さや正しい事が何かを見極める、先々を見据えた冷静さや、戦争や原爆など、力や権力で物事を解決せず、思いやりを持ち、人と人との繋がりを大切にして、自分の思いや感じた事を、相手に伝える中で大人になりたいと強く感じました。

広島に捧げた千羽鶴に託した思いを忘れず、今も戦場で苦しんでいる人たちが、少しでも早く、笑顔が取り戻せるように、世界の平和を願っています。

原爆の恐ろしさ

古川小学校 6年 牧 杏朱

私が広島派遣に参加した理由は、戦争や原爆に興味があり、より知りたいと思ったからです。平和記念資料館に行ってみて、原爆が落ちて火傷をして亡くなった人の写真やその時に持っていた物、焼けてボロボロになった服や焼けてさびた三輪車などが展示されていて、見れば見るほど当時の状況がわかってとても怖くなりました。

原爆ドームに行った時は、写真通りで、原爆が落ちる前と比べて大きく変わったことが分かります。私は原爆ドームの元の名前が、「広島県物産陳列館」という名前とは知りませんでした。他にも原爆が落ちた後に変った場所がありましたが、元の名前はすべて知りませんでした。

被爆体験者の方の講話を聞いて、原子爆弾（リトルボーイ）はウラン235で、600m上空で炸裂し、火の球が蓋をして広島の街に黒い雨を降らしたと聞きました。その黒い雨はのちに「毒針」と呼ばれる危険な雨で、被爆体験者の方は7歳の時に爆心地から約19kmのところまで雨に打たれました。もちろんその時はそれが危険な雨とは知らなかったそうです。

8月6日の夕方、小河内国民学校に数多くの被爆者がトラックで運ばれました。毎日運ばれて、毎日数多くの人が亡くなり、学校の裏山で火葬されました。その後、その場所に慰霊碑が建てられたとお話されました。

この二日間で、私は色んなことを知ることが出来ました。見たも

の聞いたもの、どれも怖くて悲しくて、絶対に戦争は起こってはいけないことだと改めて思いました。また、こんなに誰もが不幸になる出来事を忘れてはならないとも思いました。このような考え方が出来るようになったのは、今回の派遣団に参加させて頂いたおかげです。

平和とは、命が守られ、家族や友人、みんなが安心して暮らせる世の中の日常生活にあるものだとは私は思います。その想いを胸に、今回学んだことを忘れないようにしたいと思います。

戦争体験を聞いて

今池小学校 6年 中澤 悟 有

僕が広島派けん団に参加しようと思った理由は、母のすすめと、原爆についてテレビで聞いたことはあるけれど、実際に行って見たり聞いたり、今、学べるチャンスだと思ったからです。

広島に行く前に、えのきさんの被爆体験を聞かせてもらい、たくさんのガラスの破片がささっている状況を見たり、川を一人で渡ったり、お姉さんともう二度と会えなくなったり、もし自分がこんなことになったらと思うと悲しくなりました。なんで戦争になったのか疑問もできました。

広島へ行って平和記念資料館で見た中で、心に残ったのは展示物です。それらを見ると、自分があの場所にいたら怖くて動けないと思いました。被爆され、その後、生き抜いている人がいる事を知っ

てすごいなあと思いました。ほとんどのものが黒こげで、原爆の強さも実感しました。

2日目の追悼平和祈念館では、遺影コーナーでたくさんの亡くなられた方の写真が映し出されていました。その中に子供もいて、自分と同じくらいの子がこの状況でつらい思いをしたかと思うと悲しかったです。その子のお父さん、お母さん、兄弟も悲しんだと思います。この事がもう二度と起こってほしくないという思いが強くなりました。

広島から帰ってきて、お盆に近づくと、戦争のテレビ番組が放送されることが増えました。今まではじっくり見ることは無かったけれど、今年は広島で学んだこととよく似た内容だったのでじっくり見れました。「マルレ部隊」が特集されていて、広島でこの船の展示も見ました。お母さんは知らなかったので教えてあげました。当時16歳の男の子が出撃命令なく終戦を迎えたとお話されていました。僕の姉は16歳、家族が戦争に行くなんて考えられません。今後日本は、戦争を起こさないと思うけれど、他国から何をされるかわかりません。日本が被爆して辛い経験があるからこそ戦争はダメだと断言できるんだと思います。世の中でも未だに戦争は続いています。どうしたら戦争がなくなるのか。今の僕には答えが出てこないです。なので、僕が今回学んだことや知ったことをみんなに広めたいと思いました。

夏休みの宿題の自由研究で戦争のことをまとめてみようと思います。人を殺したり悲しいことが起こらない社会で、誰もが平和な世界ですごくせたらなあと思います。

戦争体験の語り部の方々に直接話が聞けたり、実際に広島へも行

けて、派けん団に参加させてもらい貴重な体験ができました。ありがとうございました。

実際に広島に行つて

今池小学校 6年 安中 瞬

ぼくは、7月25日から26日の二日間で、「広島派遣団」に参加しました。参加したきっかけは、仲のいい友達からさそわれたからです。ちょうど学校の授業で戦争のことを知って、興味を持ったからです。

一日目、まず最初に資料館に行きました。そこで、原爆が爆発した時の様子がよく伝わってきました。例えば、原爆を落とされた直後の建物やボロボロの服、真っ赤な人達の写真がいっぱいあってかわかったです。また、その写真に合わせて音声で説明してもらえたので、よく知ることができたと思います。

その後、原爆のひがいの者から話を聞きました。8月6日8時15分に原爆が落とされて、それだけでも多くの人たちが死んじゃったり、ボロボロになっていたけれど、その他にも、あたり一面火の海となったり放射性物質である「黒い雨」が降ってきて死んでしまったり、原爆が落ちた直後でなくても、苦しめられたことを知りました。これまで約14万人の人が死んでいて、原爆は絶対に使つてはいけない、戦争はゆるせないと思いました。

二日目は原爆ドームに行きました。実際に初めて見る原爆ドーム

は、やっぱり骨組みしか残っていないくて、あんなに大きい建物がこんなことになっていて、爆発のしやうげきが伝わりました。

次に、平和記念公園に行つて、子供の像を見ました。バスガイドさんからこの像は「禎子さんの像」といって、平和の象徴ということとを教えてくださいました。その下にはたくさんさんの折り鶴がかざってありました。ここでは、日本だけではなく、世界中から集まってきたいて、とても多くの人から「次は戦争を起こさない」という気持ちで伝わってきました。

最後に、追悼平和祈念館では一日目と同じように、こわい写真がいっぱいありました。その中でとくにこわいと思ったのは、当時のでき事を表した映像と、がい骨がいっぱい並んでいるお墓の写真でした。

ぼくは広島で原爆のおそろしさを学びました。何回もいいますが、やっぱり原爆というものは簡単に人を死なせてしまう物です。この戦争では、日本がひがいにありました。もし次に戦争がおきてしまつと、他の国もひがいにあうかもしれません。なので、世界中の人が広島の人たちと同じ目にあわないために戦争はなくさないといけないと思いました。

今回「広島派遣団」に参加して、戦争のひさんさを知つて平和について考えることができてよかったです。



広島に行つて

今池小学校 6年 吉岡 璃子

私が広島へ行こうと思ったきっかけはポスターです。そのころ、学校で平和に関するじゅぎょうをやつていて、きょうみを持つたからです。

一日目、朝、城陽市役所を出発し、サービスエリアでトイレ休けいなどをして五時間くらいで、昼ごはんをたべる店に着きました。

そして、おいしいうどんなど、いっぱいいたべ、原爆しりょうかんにバスで向かいました。原爆しりょうかんに入るまえは、楽しみな気持ちがあつたけど、入つてみたらまっくろの弁当箱、焼けた服、けがの写真などいろんな展示物があつて心がすごくいたみました。

次に、被爆した人の話を聞きました。地図や、パソコンで作つたスライドでわかりやすく説明してくださいました。とちゅうから、当時あつた出来事の話になったり、戦争があることは世界をこわすことにつながるなど、いろいろなことを話してもらいました。

被爆者の方の話が終わり、旅館に着きました。

そこからお風呂に入り、ごはんをたべ、しばらくするとミーティングの時間になりました。ミーティングでは今日一日をおして思つたことを発表したり、話しあつたりするなど今日一日をふりかえることができました。ふりかえりが終わると、各自もつてきたつる五十羽をたばねました。メッセージを書いたところでミーティングは終りようし、部屋で少し話して、ぐっすりねました。

二日目は、朝ごはんを食べ、原爆死没者いれいひに行きました。

花をささげて原爆の子の像に行きました。一日目の夜にたばねた千羽づるを、ささげました。他にもたくさん千羽づるがささげられていました。

原爆の子の像のさだちゃんは、後から急に白血病にかかつてしまったという話を聞いて、とてもびっくりしました。

そして、原爆ドームに行きました。原爆ドームは、半分ぐらくずれていて、かいだんが熱さでまがつていたり、レンガにひびが入つていたり、とても原爆のおそろしさが分かる建物でした。

昼ごはんは広島焼きを作りました。生地がクレープみたいにもちもちしていたり、キャベツなど具材がたくさん入つていてとてもまんぞくかんがが大きかったです。

帰りのバスではほとんどねていました。

家に帰つてごはんを食べているときや、ねる前、家族にたくさん広島の話をしました。

私は、「世界から戦争が無くなつて平和な世界になつたらいいな」と思いました。

戦争や原爆の恐ろしさ

寺田西小学校 6年 石原 花菜

私が今回、広島派遣団に参加したわけは、友達に教えてもらったからです。広島でおきた原爆のことやその恐ろしさをもっと知つて、二度とそのようなことが起こらないようにしたいと思つて参加しま

した。

実際に広島に行ってみると、広島に行くまでに思っていたよりも、戦争はもつともつと恐ろしいものだと思いました。実物を見たり、実際に体験された方の話を聞いたりして二度とあってはいけないことだと思いました。

その中でも特に印象に残っているのは、資料館に行ったことと、実際に体験した方の話を聞いたことです。なぜなら、資料館には原爆が落ちた後の様子や、原爆が落ちた時にあった物が置いてあったからです。文や説明がなくても分かる恐ろしさでした。

体験者の方の話を聞いたりしたときは、原爆のことを詳しく知ることができました。原爆の大きさや落ちるはやさ、どのような被害があったのか、どれも私が思っていたのとは全然ちがってびっくりしました。もし私がその場にいたらきつと自分のことに必死でいたと思います。でも原爆が落ちた時の様子を見たり聞いたりしていると、その場にいた人たちはみんなで助け合ったりしていました。それでも、1つの爆弾のせいでたくさんの人が亡くなってしまっていてそれを知ってとても悲しくなりました。

原爆ドームに行った時もとてもびっくりしました。なぜなら原爆のせいでもとても大きい原爆ドームが壊されていたからです。原爆が落ちる前と落ちた後の原爆ドームは信じられないほど変わっていました。たった一つの爆弾でこんなに変わるとは思っていませんでした。

今回、広島県に行つてたくさんのことを知れました。1つ目は戦争や原爆の恐ろしさ、2つ目は平和の大切さ・戦争や原爆は二度とあってはいけないこと、ということ。先生や被爆者の方達は「最

近、原爆を体験した人が少なくなってきた」とおっしゃっていたので、私は、1人でも多くの人に平和の大切さ・戦争や原爆の恐ろしさを伝えていきたいと思いました。私が自分でできることは、今回、広島県へ行つて知つたことを友達や家族、私の身の回りにいる人たちに伝えていくことだと思うので、伝えていきたいと思いました。今、日本は戦争をしていないけど、戦争をしている国はあるので、その国も他の国も戦争をせずにみんなが協力して、楽しく平和に暮らせる世の中になつてほしいと思いました。

被爆者が口をそろえて言うこと

寺田西小学校 6年 谷口 愛莉

私が五年生の時に、国語の学習で「たずねびと」という物語がありました。その学習で原爆に興味持った私は、母にたのんで広島に連れて行ってもらいました。一度行つた広島ですが、派遣団に応募し、また広島に行こうとしたのは、今回は見学のときなどにガイドさんがついてくれるので、同じ資料を見るのでも感じがちがうと思つたからです。

広島に入ると、ガイドさんが様々な話をしてくれました。その中で特に印象が強かつた話が二つあります。一つ目は、佐々木禎子さんについての話です。禎子さんは被爆後十年は元気に過ごしていましたが、その後白血病と診断され亡くなりました。原爆で亡くなった人の中に、私と同じ年れいの人もいたんだと改めて思いました。

十年もたってから人に被害をおよぼす原子爆弾は、まるで出口の見えないトンネルのようで、本当におそろしく感じました。

二つ目は、原爆の子の像に供えられている、たくさんの千羽鶴に放火された事件についてです。私は千羽鶴がなぜケースに入れられているのか気になったのですが、ガイドさんからは「昔、放火事件があったからかも知れないです。」と聞きました。興味を持った私は、その事件について調べてみました。すると、男子大学生がむしろしゃしていたときに広島を訪れ、約十四万羽の千羽鶴に放火したということが分かりました。たくさんの人の平和への思いがこもった千羽鶴に放火することは、何があっても絶対にしてはいけないことだと思います。このような事件を二度とくり返さないためにも、今回参加させていただいたイベントや学校などで平和学習を行っていただきたいです。

広島派遣団で一番心に残ったことは、被爆された方の講話です。被爆された方のお話は、戦争の生々しさや原爆投下直後の広島の悲惨な光景が伝わってきて、むねがしめつけられるような気持ちになりました。私は被爆された方の講話を、VTRも含めて合計三人の体験談を聞きました。被爆された方はみんな口をそろえて、「戦争はいけない。」と言われました。私は、みんなが戦争を体験したら戦争は起こらないと思います。だからと言って、みんなが戦争を体験してしまう事態は絶対に起きてはなりません。そのためには私が実際に聞いて学んだこと、感じたことを私自身が発信していくことが大切だと思います。もう二度と戦争が起こらないように他人事だと思わず、一人一人が行動できる時代が来ればいいなと思います。

戦争と平和について学んだ広島派遣

寺田西小学校 6年 服部 紗英

私が広島へ行こうと思ったきっかけは、学校で原子爆弾のことを学んで、その怖さを学んで興味を持ち、毎年行われる8月6日の式典が、日本にとってどんなに大切で、意味があるものなのか、自分の目で見て、調べてみたかったからです。

実際に広島へ行つて、原爆のことについて本当にたくさんのことを知りました。その中で一番心に残った場所は、平和記念資料館です。そこには、原爆と戦争について詳しく書かれていて、原爆の被害者の方の写真がたくさん展示してありました。放射線で髪の毛が抜けた方や、投下後すぐに傷を負うのではなくて、何年かたっていろいろな病気が起こってしまう方の展示もありました。

放射線は私が思っていた以上に、本当に怖いものだと分かり、原爆の恐ろしさを感じました。何も悪いことをしていない人たち、何も知らない人たち、本当にたくさんの人達が戦争の犠牲になったと思うと、とてもかわいそうで悲しいです。特に、私と同じような小さい子ども達が死んでいく場面は、信じられないくらい悲しくて涙が出そうで、ちゃんと見られませんでした。

被爆体験者の方のお話では、原爆についてくわしく話してくださいだったので、恐ろしさや体験した人にしかわからない怖さや苦しみ分かり、また悲しい気持ちになりました。

今、日本の周りでは、核を持っている国が強いと考えている国がたくさんあります。でも、それは本当の強さではないと思います。

自分達の思うことが言えて、相手の意見をわかることが、本当の強さだと私は思います。広島で起きた原爆の被害のように、みんなが二度と悲しい気持ちにならないように、一つでも核を持った国がなくなるようになってほしいです。

私は今回広島で見てきたこと、聞いてきたことを、家族に話しました。なぜ原爆が落とされたのかをみんな考えて、その理由は戦争だと思いました。私たちはみんなが戦争は良くないことだと分かっています、戦争はなりません。実際に、私たちはいつもウクライナやパレスチナで起きている戦争のニュースを見ます。幸せな顔をしている人は誰もいません。広島と同じように悲しい辛い顔しかありません。戦争は絶対にあつてはならないものです。

戦争の恐ろしさと平和の大切さについて学習ができた、大変貴重な機会になりました。また、新しい友だちとの出会いがあったり、これまでの友だちの新しい素敵なところを発見することもできたりしました。友だちと一緒に、今回の派遣で学んだことをみんなに伝えていきたいな、と思いました。このようなチャンスをくださって、本当にありがとうございます。これからも平和のために私が何ができるのかを考え続けたいと思います。



日常と非日常

寺田西小学校 6年 石橋 瞳

広島派遣団に参加しようと思ったきっかけは、学校で先生が広島
の原爆の事について話をされ、「原爆・戦争の事についてもっと知
ってみたい」と思っていた時に、広島派遣団への募集があることを
知り、行ってみたいと思い応募しました。

私は現地に着くまで実際に広島でどんな風に恐ろしいことが起こ
ったのかということをもまだよく分かっていませんでした。

広島に到着し、平和記念資料館へ行きました。そこで目にしたの
は、ぼろぼろになった三輪車でした。その三輪車は実際、原爆が落
ちた時に子供が乗っていたもので、乗っていた子は亡くなったそう
です。その子の親は「子供を燃やしたくない」「死んでからでも三
輪車で遊べるように」と、子どもと三輪車を一緒に土に埋めたそう
です。それから時が経って、その子の親は、子供の遺骨をお墓に移
すことを決意し、子供の遺骨と三輪車を掘り出し、遺骨をお墓に埋
め、三輪車を平和記念資料館に寄付されました。

私はこのことを知り、原爆は『日常』を一瞬で奪い取るものなん
だと思ったのと同時に、戦争はいつ起こるかかわからない存在だとい
うことがわかりました。今の『日常』が一瞬で奪い取られる。これ
を想像すると、とても怖くなりました。

次に被爆者の迫田さんのお話を伺いました。『人はなぜ生きるの
か。』迫田さんは二つのことを話してくださいました。

一つ目は『幸せになるため、生きるため』
二つ目は『心を浄化し人間になるため』

私は、二つ目の『心を浄化し人間になるため』という言葉が印象に残りました。人間は生まれた時から人間で、大きくなっても違う生き物にはならないし、それはみんな同じだと思っていました。

迫田さんのお話をお聞きし、『なぜ戦争が起きるのか?』『浄化するために生きると言うことはどういうことなのか?』『自分なりに考えてみました。』

自分の利益だけを考えて、相手のことを思わない気持ちが『毒』となり、相手を傷付ける感情が、戦争につながるのではないかと思えます。『毒』の感情を無くす、『浄化させる』ことにより、戦争ではなく、話し合い・助け合いの心で解決できるようになるんだと思います。つまりは、相手のことを考えることが大切で、それが『浄化するために生きる』ということだと思いました。

今回の広島派遣団に参加して、たくさん『非日常』を勉強することができました。普段何気なく過ごしている『日常』を『ただ生きる』ではなく、『浄化するために生きよう』と思います。



広島派遣団に参加して

寺田南小学校 6年 重松 眺太郎

ぼくは広島に行つて楽しかったこと、しょうげきだったこと、悲しかったことをこの感想文に書こうと思います。

みんなが集まって出発式をしてバスに乗って広島へ向かっている時、車窓からは、田舎の景色、山の中の景色、都会の景色など色々きれいなものが見えてよかったです。お昼ごはんはぼくの大好きなうどんでもうれしかったです。そこで広島弁の「ほいじゃーのー」を習って平和記念公園に行つて、公園の中の平和記念資料館を見学しました。

最初は「まあ普通にちゃんと勉強して帰ろう」と思っていたけどいざ中に入ると、それとは真逆で、しょうげきだったことが沢山ありすぎて、頭が混乱しておかしくなりそうでした。だからこれが現実で起きたことだと思ったら「原爆は本当におそろしくて、こわい物だ。」と改めて思いました。あと遺品や服、その時あった建物、被爆した人の治りようしている最中の写真などが展示されていて、予想とは全く別の物でした。とてもつらくて、悲しかったです。被爆者の人の話では、山奥にいても、きのこ雲、光、音はものすごくしっかり見えていたと証言されていました。ぼくは信じられない気持ちでいっぱいでした。他に原爆の大きさ、重さ、燃料など教えて下さりました。そう考えたら学校の教室の高さなんだなと思い、思ったより小さくてびっくりしました。でもそんな爆弾が広島町の町をおそったと思うと背筋が凍りました。

見学も終わって宿泊しせつに着いて、お風呂に入ってごはんを食べて一日目は終わりました。

原爆死没者慰霊碑に行った時は、キクの花を供えてごめい福を祈りました。そして、追悼平和祈念館に行つてその原爆で亡くなられた人の遺影や情報をタッチパネルで、調べることができました。さらに、原爆供養塔納骨名簿には、小学五年生の国語「たずねびと」に出ていた「楠木アヤ」の名前を見つけました。物語を思いだした時、胸が痛くなりました。

原爆ドームは大きくて、あんな原爆が落ちていても少し残つていて、原爆のい力にも負けずに形を残した力強さを感じました。

広島焼きは、ふつうのお好み焼きとはちがつて、めんが入つていて弾力があつてとっても美味しかったです。お土産は、みんなが喜ぶものをたくさん買つて行きました。

今回、広島派遣団に参加できて本当に良かったです。なぜなら、原爆について学べた、平和の大切さについて学べた、他校の子達と仲良くなれたからです。このことを大人になったら自分の子どもにも伝えてあげたいなと思いました。

広島に行つて

寺田南小学校 6年 谷 聡 介

僕が、令和六年度城陽市平和のための小中学生広島派遣団として、広島に行き最初に感じた事は、うれしさ半分と、やる気半分でした。

一生のうちにに行けるか行けない場所なので、うれしかったのと、僕が生まれるずっと前の日本での戦争を勉強したいというやる気がありました。戦争は今もウクライナなど、外国で起こっているの少し知っているけれど、くわしい事はほとんど知りません。どんなものなのかと、広島行きのバスの中で思っていました。

一日目はまず広島について、「むすびむさし」と言う所で昼食をとらせてもらい、そこから一時四十五分ごろに、平和記念資料館常設展示に行かせてもらい、音声ガイドを使つて戦争のおそろしさや、原子爆弾投下後に降ってくる黒い雨のおそろしさ、飲み物がなく、のどがかわきすぎたあまりに黒い雨を飲んでしまつて体調をくずして亡くなつてしまつた人や、戦争に巻き込まれて亡くなり、遺体が残つていないため、当時着ていた服やかばんを形見にする人もいたと聞きました。

その後、平和記念資料館の企画展示を見学しました。そこにはまだ戦争前の学生達の日記がありました。企画展示の題名は「友達の記憶」でした。友達を亡くした人の遺品や学校名、年齢、爆心地からの被爆の距離が書いてありました。

次に、被爆体験者のいさおさんの話を聞きました。いさおさんは、一九三八年生まれで八十六才です。七才の時に爆心地から北西に約十九キロ離れた山の中で黒い雨にあつたそうです。いさおさんは二〇二二年の四月に被爆者に認定されました。戦争や原子爆弾を知らない若い世代に戦争のおそろしさを伝えたいと言っていました。

二日目の朝、広島平和記念公園内の慰霊碑に花をささげました。また、原爆の子の像に折り鶴をささげました。その後、追悼平和祈念館に行きました。そこでは動画で、被爆体験者の方の話や、戦争

が起きた時刻、その当時の説明がありました。

この二日間で感じた事は、戦争はだれも幸せにならないし、むしろ人々の命や幸せをうばい、人々を絶望させるんだなと思いました。戦争をなくすには、お互いの気持ちを考えて尊重し、話し合いで解決出来れば良いと思いました。

最後の昼食で、広島風お好み焼きを自分で作り食べる経験をしました。生地を薄く伸ばして焼くのがむずかしかったです。やっぱり自分で作るよりお母さんが作るお好み焼きの方が美味しかったです。今回、広島派遣団として広島に行き貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。

広島に行つて

寺田南小学校 6年 山川 敦士

僕が広島派遣団に参加した理由は、友達や家族に原爆の恐ろしさを伝えたかったし、自分の目で原爆の被害にあった人々の姿や状況を見て、学びたかったからです。

一日目は、高速道路を使って広島まで約5時間位かけて向かいました。それから、平和記念資料館、常設展示、企画展示や被爆体験者の話を聞き、原爆の恐ろしさ、当時の人々が絶望していた事を知りました。自分が、想像していたよりも被害が大きく、死者の方々が多くて、悲しい気持ちになりました。

被爆体験者の迫田さんが、話して下さった言葉で、とても印象に

残っている内容があります。平和は、作るものということです。平和な日々を過ごしているのは、当たり前と思い込んでしまっている、と、気付かされました。

宿泊施設では、行動班のメンバーと原爆の事を真剣に話し合いました。それを、まとめて、一つの言葉にしました。「今すぐに世界から戦争が無くなるのは難しいけれど、世界から核兵器が無くなるように強い気持ちで思い続ける事が大事！」と。

二日目は、広島平和記念公園内の原爆ドーム、慰霊碑と追悼平和祈念館に行きました。広島平和記念公園では、原爆の子の像があり、各自で作ってきた折り鶴をさげました。追悼平和祈念館では、被爆者証言ビデオを見ました。遺影コーナーでは、原爆の被害の様子を沢山見ました。自分が、もし原爆の被害に遭っていたらと考えると、ものすごく恐ろしいと思いました。

最後は、お好み焼き体験をしました。上手くひっくり返せず苦労しました。クレープ状の生地や焼きそばが使われていて、いつも食べているお好み焼きとは違いました。広島のお好み焼きも、とても美味しくて、完食しました。

今回の広島派遣団では、今まで知らなかった事を学びました。平和は素晴らしいし、平和であることは当たり前ではなく、作るものという考え方を知りました。この学びを、家族や、周りの友人に伝えていきたいと思います。



これから私にできること

寺田南小学校 6年 末 永 結 彩

私が原爆ドームを見たり、戦争のおそろしさを知りに広島に行った理由は、国語の授業で「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」「やなせたかしアンパンマンの勇氣」などの戦争のお話を見たり登場人物の気持ちを考えたりして、今生きている私達と同じような生活が、戦争があるせいで、できなかったことなどを知ったから、もっと戦争の事、戦争のおそろしさを知って、今の生活ができているありがたみや、決して今の生活がふ通ではないこと、またいつ戦争にまきこまれるか分からないことを、あらためて知っておきたかったからです。

私が広島で学んだことで一番心に残ったことは、佐々木禎子さんのことです。禎子さんはたった2歳で被爆し、それから10年後に白血病で亡くなったことを知りました。戦争のせいで、罪のない人々の明るい人生が一しゅんにして暗い人生になってしまったことがとてもショックでした。

そして、平和記念資料館で、原爆による被害は人々だけでなく、馬などの動物も、被害にあっていることが分かりました。馬は爆風で飛ばされ、橋の上で宙ぶらりんになってしまったりなど、他の生き物たちもとても苦しいまま死んでいった事を考えると、とてもせつない気持ちになります。今を生きている人たちはきつと、戦争のことを知っていても、広島県であつたとても悲しいことを知っていても、人々以外の生き物はどうなつたか、佐々木禎子さんのことな

どは、知らない人が多いと思います。他にも、白血病やほうしゃせん、黒い雨のことも知らない人はとても多いと思います。でも知っておかなければならないぐらい、とても大事なことです。だから私は、被爆者の人が話していたように、できるだけ多くの人達に、戦争のおそろしさを、今の生活ができていることがどれだけありがたいことか、わすれてはならない事を、広めていきたいです。

広島に行つて

寺田南小学校 6年 高 田 ひなた

私が広島派遣団に参加しようと思った理由は、友達と1泊2日の旅行ができて原爆の事も知れるし楽しそうだなと思って、楽な気持ちで参加しました。

1日目は、平和記念資料館を見学しに行つて、火で真っ暗に焦げた服やボロボロになつて三輪車などがあつて、小さい子も大変なことであつていて、原爆や戦争は人の大切な命を奪う危険なものだと知りました。

あと平和記念資料館でいちばん心に残つたところは、子供から大人まで、年齢関係なく死体を持つて燃やすと言うところです。なぜかという私は、絶対そのような怖いことができないし怖くて見ていられないからです。でも実際に子供たちも怖いの死体を持ち運んでいるので、怖いとか言つてる場合ではないんだなと思いました。あと平和記念資料館には全身血だらけで倒れている人の写真もいっ

ばいありました。でも昔は、あんまり薬も無く治療ができなかったし、戦争や爆弾で治療できないし、お医者さんもお大変だと思いました。私は、そんなに戦争や原爆が恐ろしいものだと思っていなかった。なのでその話や写真などを見てびっくりしました。

実際に被爆者の話を聞いて恐ろしいと思ったのは、みんな原子爆弾が落とされて熱いから川へ行つて、そこでは死んだ人が何人も川に浮いていて、被爆者の友達や小さい子供も、その死体を運んでいたと言っていてとても悲しいことだと思いました。被爆者は、泣きそうになりながら、悲しい思いで私たちに話してくれたので、絶対に被爆者から聞いた話などを忘れてはいけないと思いました。

2日目は、原爆ドームを見に行きました。原爆ドームは、教科書でしか見たことがなかったので実際に見に行ってみると、とても大きくて丈夫そうなのに、こんなに穴が空いたら傷だらけになるんだなと思いました。

原爆ドームは、戦時中から原爆投下までは広島県物産陣列館という名称で開館したんだとわかりました。あと8月6日は、広島にとつては、忘れられない大切な日だと思いました。

あと赤ちゃんも生まれて間もない子も、人生が戦争や原爆でなくなつてかわいそうだなと思いました。なので、この、恐ろしい戦争や原爆のことを思いながら、もつと命を大切にしようと思いました。

私はこの広島派遣団の二日間で、戦争や原爆の恐ろしさや悲惨さを知りました。私は、もうこんな悲しいことが起きてほしくなと思います。あと他校の人と交流ができて参加して良い経験ができたと思いました。戦争や原爆の悲惨さをもつといろんな人に教えようと思いました。今回は、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

ございました。

広島に行つて

寺田南小学校 6年 中西 柚季

私が広島派遣団に応募した理由は、学校で広島派遣団のプリントをもらつて、私も原子爆弾や戦争のことをよく知つて、戦争のおそろしさを多くの人に知ってもらいたいと思つたからです。

私は七月二十五日、城陽市の代表として、広島派遣団に参加しました。朝バスに乗っている時や、広島に到着して観光をしている時は、景色もきれいでこんな所に原子爆弾が落ちたなんて考えられませんでした。しかし、原爆資料館に行つたり、被爆者の話を聞く事で、戦争のことや、原爆の恐ろしさがよく分かり、本当に原子爆弾が落ちたのだと改めて感じました。そして、原子爆弾が落ちたのに、今はきれいな景色に戻っているのです、復興するための取り組みがたくさんされていたのだと思いました。

資料館に入ると、たくさんの方の被爆者の方の写真や、ぐにやぐにやに曲がつてしまった自転車や八時十五分で止まった時計などがたくさんあり、原子爆弾の、被害の大きさがわかりました。

私が原爆資料館で、心に残つたことは、二つあります。一つ目は、原子爆弾によつて、真っ黒になり、溶けて変形してしまつた三輪車です。小さな兄弟が乗っていた三輪車だと思うと、むねが苦しくなります。黒くなつた人の影や、ぼろぼろになつた服を見て、私は、

原子爆弾の恐ろしさが、よく分かりました。二つ目は、「原爆症」でベットに横になってゐる人達の写真です。なぜなら、原子爆弾から身を守った人達でも、その後に降った、放射線の入った黒い雨を、からだに浴びて、「原爆症」になり、その後、なくなってしまうからです。

二日目には、原爆の子に千羽鶴を捧げました。そこには、とてもたくさん千羽鶴が置いてあり、おどろきました。そして、これだけたくさんの方が原子爆弾のことを学びにきているということは、戦争はしてはならないということを伝えていく上で、とても大切だと思いました。

私は、広島派遣団に参加して、戦争は、みんなの命を奪う、あってはならない存在だと分かりました。そして、私は、気持ちよく暮らせる平和な世界を作るために、このことをより多くの人に伝えていきたいと思いました。また、戦争で起こった被害は、忘れてはならないことだと分かりました。

広島に行って良かったです。貴重な体験をありがとうございました。

広島を訪れて

深谷小学校 6年 堀井 こゆき

私が『平和のための広島派遣団』に応募したきっかけは学校で配られたプリントを見て、広島に行って、戦争や原爆のことを詳しく

知りたいと思ったからです。

広島に到着したとき、木や植物が沢山植えられていました。

今から七十九年前、原爆が落とされ、「七十五年間は草木も生えない」と言われていましたが、終戦後いち早く咲いた『キョウチクトウ』は市の花になっています。『キョウチクトウ』は、生き残った広島市民に希望や勇気を与えてくれたのだと思いました。

広島を訪れて、一つ目に学んだのは、一九四五年八月六日、長さ3m、直径0.7m、重さ4t、見た目が細いので『リトルボーイ』と呼ばれる爆弾を市街中心地の上空600mに落とされたのが、広島を襲った原子爆弾だという事です。原子爆弾の威力は、熱線3000度から4000度の高温、爆風秒速280m（人が吹っ飛ばくらい）で、放射線直接被爆、残留放射線、放射線降下物（黒い雨ともいわれる）この三つで人々は、皮膚が溶けぶら下がり、ケロイド状になっていたそうです。原子爆弾のケロイド傷は二度と治らない傷です。

私は原爆に関する写真は少し見たことがありますが、展示物は初めて見ました。被爆した人たちの制服や三輪車、お弁当箱など、たくさん展示物がありました。服などは黒く汚れているものや布切れになっているものまでありました。改めて、核爆弾の威力を思い知らされました。

資料館を見学した後、被爆者の追田さんの話を聞きました。

一九三八年に生まれ、原爆が落とされた一九四五年、追田さんは七才で山の中で黒い雨に遭い、七十七年後、被爆者に認定されました。追田さんは、日本国憲法第九条「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」は、と

でも大事なんだと言われていました。

私は話を聞いた後、争うのであれば、オリンピッククのようにスポーツや、もしくは勉強で競いたいと思いました。

次の日、原爆ドームを見に行きました。遠くから見ても、たった一つの爆弾で、こんなに建物が崩れるのだと思いました。

その後、「原爆の子の像」に行き、千羽鶴を捧げ平和の灯の近くで花を捧げました。一日でも早く核兵器が無くなり、灯が消えるようお祈りしました。

私はこの世から戦争が無くなり、核兵器が早く無くなって欲しいと思うと共に、市を代表する平和のための広島派遣団の三十六人の一人として広島に行ったので、みんなに核兵器の恐ろしさを知ってもらうために、被爆された人たちの代わりに広めていきたいと思いました。

ヒロシマを知ることとはキノコ雲の下を知ること

青谷小学校 6年 三 浦 ゆそら

私が広島派遣団に参加しようと思ったきっかけは、去年、祖父母と、平和記念公園を訪れた時、原爆資料館の前に海外の人たちをはじめ、多くの人たちが並んでいて、何時間も待たなければならなかったため、入ることが出来なかった事が心残りで、この派遣団をきっかけに原爆についてより詳しく知りたいと思ったからです。今回の派遣で原爆は罪のない人たちの命を一瞬にして奪ってしまうだけ

でなく、一年後、五年後、十年後、三十年後になっても原爆症や差別を受けるなど、残酷なものだと知りました。現在起こっている戦争やこれから起こるかもしれない争いに核兵器が二度と使われないようにするため、私には何が出来るのだろうと深く考えるきっかけになったと思います。

私が、原爆資料館で強く心に残った資料が二つあります。一つ目は佐々木禎子さんの写真と折り鶴が展示されていた所です。佐々木禎子さんは二歳の頃に被爆し、直接原爆では亡くならなかったけれど、十年後突然白血病と診断され、入院をしました。千羽鶴がお見舞いに贈られた事がきっかけとなり、禎子さんは「生きたい」と言う願いを込めて折り鶴を作り始めました。けれども願いが叶う事はなく、家族が見守るなか十二歳の若さで亡くなりました。私はこれを見て、原爆によって直接亡くなってしまふ人もいれば、十年経ってから発症するかもしれないという分からない所が原爆の怖さの一つだと思いました。

二つ目は、資料館で見た絵です。その絵は、原爆によって立ったまま亡くなっている人たちが描かれていて、その人たちの周りは火でかこまれているというものでした。この資料をよく見ると、亡くなっている人たちが一人一人の性別や年齢も分からないくらい体が熱風で焼かれてしまっていて、それだけ強い力で、何が起きたか分からないぐらい一瞬にして罪のない人たちの命を奪ってしまう恐ろしいものだと思います。

今年の八月で原爆が落とされてから七十九年が経ちました。日本では原爆を実際に体験した人や、原爆について伝える人がどんどん亡くなってしまい、私を含めて実際の戦争や原爆を知らない人たちが

ばかりになってしまいました。現在私たちが幸せでいられるのは、多くの被爆者の人たちが今の私たちへ必死に平和について伝えようとしてきたからだと思います。広島に原爆が投下された時、キノコ雲の下がどんな様子だったのか、投下したエノラ・ゲイの乗組員たちだけでなく、資料館を訪れる前の海外の人たち、アメリカ人、そして今の多くの日本人たちは知らないかもしれません。キノコ雲をテレビや教科書で見ても、その下の恐ろしい光景を知らないから、このような兵器をいまだに作り続けられるのではないのでしょうか。私は広島派遣団をきっかけに、被爆者の話や資料館の見学を通してその光景の一部を知ることができました。だから私も原爆の恐ろしさを知った一人として、たくさんの人たちにこのことを伝えていこうと思います。貴重な経験をありがとうございます。

知ること、伝えること

城陽中学校 1年 岡 睦 月

「戦争をしてはいけない」「原爆はとても恐ろしいものだ」

どれも、言葉ではわかっていているものの、実際に経験したわけではないので、どこか自分と違う世界で起こった事かのように考えていました。また、平和な生活に慣れすぎたのか、今の生活を、当たり前のことだと無意識に思っていました。しかし、今回の広島派遣団に参加して、その幸せを一瞬で壊された人たちのことを知りました。広島に到着した日は、空が青く広がるいい天気で、内心ワクワク

しました。それと同時に、七十九年前に原爆が投下されたとは思えないほど広島は自然豊かで美しく、驚きました。

一日目に訪れた広島平和記念資料館では、入り口付近にある「原爆が投下されて28843日」と書かれた時計台を見て、「あの日を絶対に忘れない」という執念や本気さが伝わってきました。展示されているところでは日本人と同じぐらい外国の方もいたのでびっくりしましたが、自国で起こったことのように真剣に考えてくださっていると感じ、嬉しかったです。奥に入ると、痛々しい写真や絵、亡くなった方の遺品や遺書が数多く展示されていました。皮膚がただれ、もはや服なのか皮膚なのか判別できないような人の写真、水を求めて歩く人々の絵などです。そして、一際目立っていたのが、人が座っていた部分だけ変色していない「人影の石」です。まるで、数分前まで本当に人が座っていたかのように感じ、そこで初めて原爆がこの街に投下されたという実感が湧きました。また、二歳で被爆し、十二歳という若さで白血病になり亡くなった佐々木禎子さんの一生の記録も、自分と同年代の女の子が一生懸命生きようとしている姿に感動しました。他にもたくさんの子どもたちが原爆によって亡くなったと知りました。

被爆された方の講話では、「突然、辺りがピカッと光り、黒い雨が降ってきた時、私たちはその頃子どもでしたから危険だとは知らず、むしろ暑かったのが喜んでいました。」という言葉が特に心に残っています。知らない間に体が蝕まれていくのが一番恐ろしいと思いました。

二日目は原爆ドームを見学しました。当時は「広島県産業奨励館」という建物で、外国の建築家の人が建てたとっても丈夫な建物だった

そうですが、軸となる金属がいびつな形に曲がったりしていて、ここに自分がいたらどうなっていただろう、と恐怖を覚えました。その後、広島平和記念公園内にある「原爆の子」に千羽鶴を捧げました。遠くから見てもわかるほど箱にぎつしりと千羽鶴が吊るしてあったので、自分達と同じ思いの人がたくさんいるという実感が湧き、とても前向きな気持ちになりました。また、「原爆死没者慰霊碑」でキクの花の献花も行いました。輪の半分のような形の石に守られた石碑には「安らかに眠ってください過ちは繰り返しませんから」と刻まれており、改めて責任を持って永遠に平和について考え続けようと決意しました。

戦争をしたいと思っている人はいないはずなのに、今も世界各地で戦争は続いています。日本もいつ巻き込まれるかわかりません。日本では原爆投下から七十九年経ち、原爆や戦争を経験した方が年々少なくなり、広島平和記念資料館での原爆の語り部の方は三十二名しかいません。だからこそ、平和について考え続け、私たちが今回学んだことを、これからの世代に伝えていく責任があると思います。

この二日間を通して学んだこと

城陽中学校 1年 谷 出 ほのか

私は、戦争というものは恐ろしく、怖いものという印象があり、戦争の映像を観たり話を聞いたりするのが苦手でした。しかし、今

回学校で広島派遣団の紙をもらい、友達に誘われていくことにしました。

平和記念資料館では原爆の投下により焼け野原となった広島街の写真が一番目に入りました。本当にそこに建物があり、人が住んでいたのか目を疑うほどでした。展示物には、皮が剥がれ、ガラスの破片が刺さりながらも水を求め歩いている人の絵がありました。絵だというのに、原爆の悲惨さを物語るようで私は見ていられませんでした。他にも、原爆で亡くなった子の写真や、その時に着ていた服がかざられていて私より小さい子がたくさん亡くなっていた事実には言葉が失いました。一九四五年八月六日午前八時十五分、この時間に落とされた、たった一発の爆弾で約十四万人の人々の命が亡くなり、その時に生きのびた人でも、放射線の後遺症により苦しむ人が数え切れないほどいたということを知りました。その朝、その人の「行ってきます。」という言葉が最後になるなんて、誰も想像していなかったのです。原爆の爆発の瞬間、落下中心付近では約三千度〜四千度となりました。太陽の表面温度は約五千度、鉄が溶ける温度は約千五百度です。このような所で人が生きているわけがありません。被爆者の方の話によると、あたりが暗くなり、気づくと数メートルもとばされていたそうです。私はそれを聞いてすぐおどろきました。

翌日、私は原爆ドームを見て圧倒されました。地面にはレンガが散乱しており、本当に原爆が悲惨なものであることが改めてわかりました。平和記念公園には世界中で核兵器がなくなるまで灯されている火がありました。核兵器とは何の罪もない人々を奪う最低なものです。この火はいつになったら消えるのでしょうか。核兵器のあ

る世界は本当に平和と言えますか。世界では今もどこかで争いが起きており、たくさんの人々が命を落とし誰かの大切な人が奪われています。このようなニュースを耳にすると私はとても胸が苦しいです。兵器で争うのではなくスポーツや芸術などで競い合うのが一番良いのです。今年のオリンピックでは、負けた選手も勝った選手も互いを称え合っている姿をテレビやSNSで多く見ました。国境をこえて、人々がこのような形で競い、繋がり合う事が私は大切なのだと思います。戦争がなくなることはないのかもしれませんが、だからこそ日本は、最初で最後の戦争による被爆国であらなければならぬことを知りました。被爆者の方がどんどん減る中、この事実は決して忘れてはならないのです。そのために核兵器についてよく考えることが大切だと思いました。

私はこの二日間でたくさんのことを学びました。今回学んだことは、決して忘れず心にとめ、私はこれからも生きていこうと思いました。

一生忘れられない誕生日

城陽中学校 1年 樋口 百香

私がこの広島派遣団に応募しようと思ったのは、小学校6年生の時に社会の授業で知った戦争や原爆の恐ろしさは、実際に行ったほうがもっと深く学ぶことができると感じたからです。ただ、応募する前はすごく悩みました。なぜなら、7月26日は私の誕生日だから

です。でも、誕生日に行ったら絶対に忘れられない思い出になると思ったので行くことに決めました。

広島に着いたときは、「こんなにきれいな町に原爆が落とされたのか。」と思いました。でも、平和記念資料館に行くとその悲惨さがわかりました。まず、最初に目に飛び込んできたのは、原爆が落ちた後の焼け野原になった広島市の街の写真でした。それを見ただけでも、1945年8月6日に起きたことがどれだけ悲惨だったのかがわかりました。その後も、やけどの跡の写真や肌が焼きただれた人の写真を見て戦争や原爆は怖いものだと思えました。

平和記念資料館を出て、迫田さんの講話をききました。迫田さんは7歳の時に黒い雨に打たれて被爆されましたが、被爆者に認定されたのが2022年4月の原爆投下から77年後だと知ってすごく驚きました。講話の中で「平和とは永遠のテーマ」と迫田さんは言うていました。戦争は国の存亡をかけた命がけの戦い。始めたら勝たなければならぬものなので、だれも止めることができない。だから戦争をしなければいい。そのために、一日一日を大切に過ごすことが平和に繋がる。私は、まさにその通りだと思いました。

一日目が終わり、二日目に入って最初に行ったのは原爆ドームと爆心地です。原爆ドームはテレビで見るとより迫力があり悲しい出来事を一気に思い出させるようなところでした。この場所では何人も人が亡くなったと考えると悲しい気持ちになりました。爆心地につくと今は病院になっていました。こんなきれいな街並みが爆心地だとは信じられませんでした。

爆心地を見た後、原爆の子の像のところに行って、束ねた折り鶴をささげました。折り鶴の束が数えきれないほどあったので多くの

人が訪れていることが分かりました。その後は、原爆死没者慰霊碑に行つて菊の花を供えました。供える前と後にお辞儀をするなど決まりがあつたことを初めて知りました。

昼食の前に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館へ行き原爆で亡くなつた方の写真や被爆者となつた人の話の動画などを見て、「自分だけ生き残つてしまつた。」という想いなどから、被爆者の人も責任を感じていることが分かりました。

この二日間で平和についてもう一度じっくりと考えることができました。原爆が落ちたことはこの世で一番怖いことであり、これからも忘れてはいけな大切な出来事だと思ひました。その場にいた人たちに比べて怖さはわからないかもしれないけど、もっといろいろな人にこのことを伝えようと思ひます。誕生日だからと迷つていたけど行つて本当に良かったです。ホテルやお好み焼き体験もすごく楽しかったです。貴重な二日間をありがとうございました。

戦争が終わつたらおうちに帰れるから…

城陽中学校 1年 松井杏詩

これは「白い町ヒロシマ」という本の中の一文です。この本は、学童疎開中に広島原子爆弾で母と姉、弟を失つた少女の物語です。私は昨年この本を読書感想文の為に読み、第二次世界大戦で原子爆弾が投下され、日本が大きく変わったことを知り興味が湧き、今回広島派遣団に応募しようと思つたきっかけになりました。またその

後、第二次世界大戦について他の本を読んだり、インターネットを使つたりして調べましたが、画面越しの文字や写真だけでなく、実際の物を見たり、当時を知る人の話を聞きたいと思つたのも参加動機の一つです。

広島では、平和記念館へ行きました。そこには絵や写真、説明文の他にも、実際被爆した人の遺品等が多くあり、それぞれの展示物には詳細な説明文がありました。展示されているほとんどの物が焼け、黒く変色したり炭の様になっており、元の形が想像できないほど変形した物もありました。中でも印象的だったのは、原子爆弾で大やけどを負い、苦しみながら亡くなつていった子供達の服です。私達と変わらない様な年の子が学校へも行けず、ガレキの撤去等にかり出され、原子爆弾で亡くなりました。今まで、インターネットや本の絵や写真では目にすることがありましたが、実際目の前で実物を目にすると、原子爆弾の恐ろしさや原子爆弾の規模が伝わってきて、思わず鳥肌が立ちました。また今、おいしいごはんが食べられて、安全な家で眠れて、学校に行き勉強ができることにあらためて感謝しました。

次に、被爆者の方の話を聞きました。原子爆弾の影響で、約80年経つた今でも病気等によつて苦しんでいる人達がいて、原子爆弾の被害は長い間続いているということを知り、恐ろしく思ひました。

実際に被爆した方の話はリアリティがあり、とても分かり易くたくさんの方に聞いてほしいと思ひましたが、現在その話をして下さる方々も高齢になり、少なくなつてきており、今回話をして下さつた方も今回で終わりにするという事でした。戦争を経験した方々が少なくなり、語りべの方の後継者も減り続けている今、私に何がで

きるだろう？と考えました。そしてそれは、戦争を知らない世代だからこそ、戦争について学び、そして「戦争は二度としてはいけないこと」と再確認し、それを周りに、そして次の世代に伝えていくことだと思っています。

「白い町ヒロシマ」の少女は「戦争が終わったからお家に帰れるから…」という母の言葉を信じ、慣れない土地での疎開生活を耐え抜きました。しかし、母はその十日後に原子爆弾の犠牲になり、少女は二度と母に会うことは叶いませんでした。今回、広島派遣団に参加し、こんなに不幸な事がその時の広島では決して珍しいことではなく、誰もが父や母や子を亡くしたと知りました。広島派遣団で学んだ事を忘れず、絶対に戦争がおこらない世界にしたいです。

原爆の恐ろしさ

西城陽中学校 1年 中尾 孝 成

ぼくが広島派遣団に参加した理由は二つあります。一つ目は、ぼくは広島に行ったことがなくどんな町並なんだろうと気になったこと、二つ目は、戦争や原爆の恐ろしさをあまり知らない人たちに戦争や原爆の恐ろしさを知ってもらいたいという思いでこの広島派遣団に参加しました。

ぼくは班のみんなと一緒に原爆ドーム、爆心地や平和記念資料館、広島平和記念公園、原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑、国立広島死没者追悼平和祈念館など六ヶ所ほど見学しました。その中でも一番

心に残っているのは、平和記念資料館の見学です。なぜかというところ、原爆にあった人たちの写真が載せられていて、その写真を見ていると原爆はぼくが思っているよりはるかに危険なものだということを学べ、しかもマイクみたいな機械で音声を聞けるものもあり、原爆の恐ろしさと悲惨さを学べました。

そして被爆者講話でぼくは原爆のことをさらに深く学びました。被爆者の方は「仕事をしてる時、急に空がピカーンと光りドーンと聞こえてきた」と言っており、ピカドンとその時は言っていたらしいです。そして、「黒い雨が降ってきた」とおっしゃっていましたが、僕は黒い雨って何だろうと思っていました。でも話を聞いてみると、それは毒が入っているようで、毒針が刺さった感覚があるくらいひどいものだったようです。僕はもし黒い雨が降ってきたらすぐに逃げたいです。

これらのことから、原爆を使用すると被爆した地域だけでなく、もっと広い地域でも被害に遭いたくさんの人が死んでしまうし、とても危ないものだとなりました。

宿泊したホテルでは友達と話し合うのが楽しかったです。また、部屋ではお菓子パーティーをしながらゲームもしました。とても楽しかったです。ご飯なども楽しみにしていた通りおいしかったです。広島焼き体験では、みんなと楽しくお好み焼きを作ったり、みんなと一緒に食べられてすごく楽しい時間でした。身近にいる人達と仲良くすることで平和に繋がるんだと思いました。

バスの中でも友達と話し合ったり、ゲームをしたり、色々楽しいことがありました。僕は西城陽中学校から一人だけの参加でしたが他の学校の人達と仲良くできて良かったです。すごく楽しく、深く

学べた二日間でした。一緒に参加した皆さんや、引率して下さった市の職員の皆さま、ありがとうございました。

広島に行ってみて

東城陽中学校 1年 池田 愛莉

今回、私が広島派遣団に参加した理由は、自分が戦争について学び、その学んだことを家族や友達などに伝えたいと思ったからです。広島に行ってみたことは、今は普通で平和なところだったけど、昔は大変な目にあっただと考えると、とても複雑な気持ちになりました。

一日目には平和記念資料館へ行きました。平和記念資料館を見学していると、屋外で被爆し大火傷を負い、苦しみながら亡くなってしまった何千人という生徒たちの写真、被爆された方の服など色々なものがありました。服はぼろぼろな状態になっていて、中にはやぶれてしまった服、血がついてしまっていた服がたくさんありました。それを見た私はとても胸が苦しくなりました。服以外にも被爆者の人々が苦しんでいる写真や被害にあった街の様子、原爆でかわれてしまった街の物や、ぼろぼろになってしまった物の写真などがたくさんありました。他にもまだあったけれど、どれも複雑な気持ちになったし、胸が苦しかったです。

一日目には被爆者の方のお話も聞かせてもらいました。被爆者の方のお話を聞いていて感じたことは、戦争の被害にあった人にしか

わからないことがたくさんあり、そういうことをわかっていなかった自分がいやに感じました。なぜなら、戦争の被害にあった人々は絶対に辛かっただろうし、自分の一生のトラウマになったのにも関わらず、自分はその辛さを理解してあげていなかったんだと思ったからです。なので、これからは自分たちにできることを探して、行動したり、家族、友達、近所の人たちなど色々な人に戦争の怖さを伝えようと思います。そのうえで、大切なことが一つあります。それは自分には関係がないという考えを捨てることです。その考え方をする人がいれば、世界は平和になることはないと思います。でもそのダメな考え方をなくしていくと、世界は少しずつでも平和になっていくと思います。被爆者の方が伝えてくださったように、平和はあるものではない。築くもの、この言葉を自分は忘れないよう家族など色々な人に伝えられたら良いなと思います。

他にも、周りの人、世界に伝えたいことが4つあります。1つ目は、被爆者がゼロ。2つ目はみんなが伝承者。3つ目は若いみんなは国の宝、人財。4つ目は行動、弛まぬ努力が必要。これらの4つをみんなに伝えたいと思いました。

みんなに伝えたいことは他にもあります。戦争をやめるために被爆者の方が教えてくださった方法があります。まず、1つ目が資料館を見ることがです。資料館を見ることがによって戦争のおそろしさがわかるからです。2つ目が国際交流、世界の人々と仲良くする。そのような方法で戦争はやめてほしいと思います。

私はこの二日間が自分にとってすごくいい経験になりました。なので、この貴重な二日間での出来事などを忘れず、色々な人に戦争、広島の話伝えていこうと思いました。

原子爆弾の恐ろしさ

東城陽中学校 1年 岡田 太一

僕が、今回の小中学生広島派遣団で知ったことは「原爆（核兵器）が地球上でもっとも残酷な兵器」であるということです。なぜそう思ったのか、理由が三つあります。

一つ目は、平和資料館の見学でのことです、ここで僕が印象に残っていることは、「三輪車、鉄かぶと」という展示資料です。それは伸一ちゃんという当時三歳の男の子が三輪車に乗っている時に原爆が落下し被爆したことについての展示資料です。伸一ちゃんは全身に大怪我と大火傷を負い「みず、みず……」とうめきながらその晩に亡くなったそうです。伸一ちゃんの父親は、亡くなった伸一ちゃんに鉄かぶとをかぶせて、天国でも遊べるようにと三輪車とともに庭に埋めました。原爆投下から四十年後、伸一ちゃんの父親は伸一ちゃんの遺骨を墓所に移すことにしました。これらを掘り起こした時、鉄かぶとのなかに、伸一ちゃんの小さな頭の骨が入っていた、というものです。僕は実際の三輪車と鉄かぶとを見ながらこの話を聴き、伸一ちゃんの父親が原爆により自分の子どもを亡くし（伸一ちゃんの他にも子ども二人を亡くされたそうです）、四十年経った後でも心の整理がつかない事実を知りました。僕は改めて原爆の恐ろしさ、残酷さを思いました。

二つ目は、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館でのことです。ここで僕が印象に残ったことは、暁部隊（あかつきぶたい）の話です。暁部隊とは当時の日本の陸軍の部隊であり、原爆投下当時四・八キ

ロメートル離れた場所に待機して壊滅を免れていたため、原爆投下直後に広島市に入り救援・復旧活動や消火救難活動を行ったことでも知られている部隊のことです。ただこの部隊の中からも二次被害（体のだるさ、髪の毛が抜ける、歯茎からの出血が止まらない、後に白血病を発症など）が出たそうです。この話を聴いて原爆で人がどのような苦しみや痛みを受けたのかを知りました。また被爆した人はもちろん、救助する方も肉体的な苦痛と精神的な苦痛を味わったということを知りました。

三つ目は、被爆者の方の被爆体験談です。この方々のお話を聴いて、原爆の被爆の種類や黒い雨で人々が危険な雨であることを知らずにたくさん浴びてしまい、のちに被爆者認定をされた話を聴くことができました。この話で僕が感じたことは、原爆直後の黒い雨は打たれた人の体を蝕んでいく、原爆投下のその日その時だけの被害を受けるのではなく、被爆してから何十年経った後でも被害を受け続けるということが特に印象に残りとても恐ろしいと感じました。

広島派遣団に行くまでは、原子爆弾は、恐ろしい爆弾であることは知識としては知っていたけれど、平和資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行って原爆のリアルな遺品などを見て、当時の苦しみや今も続く悲しみを感じました。今回で学んだことを忘れず、今後に活かしていきたいと思います。

広島に行つて

東城陽中学校 1年 芦田 柚 乃

私が広島派遣団に参加した理由は二つあり、一つ目は友達に誘われたのと、二つ目は少し前から戦争について興味があったからです。

一日目はバスのクーラーが効かないというトラブルもありながらも、楽しく安全に広島に着くことができました。

平和記念館の話を友達から聞いていたり、学校の授業で戦争のことを学んでいたので、心の準備はできていましたが、やはり実際に展示資料を見ると、聞いたり学んだりする時よりも心が苦しく、とても悲しくなりました。そして、なにより衝撃だったのが、資料館の企画展でした。なぜかと言うと、この前の国語の授業で戦争の実話を読み、その話の人達の学生服が展示されていたからです。実話でも本だったので実感していませんでしたが、本当に着ていた服と、その実話が一致して、泣きそうでした。資料館でも信じがたい物ばかりで、それまでは実感していませんでしたが、実話と、企画展や資料館を見学することで、「一つの爆弾でこんなひどいことになったんだな」と実感することができました。

資料館を見た後、被爆者の迫田勲さんのお話を聞きました。迫田さんのお話で学んだことは、広島に投下された原子爆弾（リトルボーイとも言う）の事、迫田さんが原爆が投下された八月六日の午前八時十五分になんを見ても、どのように被爆したのかとか、迫田さんの知り合いなどのお話を聞いて、戦争は絶対してはいけないということが分かりました。また、平和のことについても分かりました。

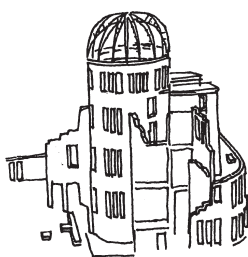
迫田さんは私たちのために、思い出したくもないような苦しく、悲しい思い出をお話してくださって、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。

その後平和記念公園から、お宿に行つて、とても楽しい時間を過ごしました。

二日目は公園で原爆ドーム、原爆が落とされた所に行きました。テレビなどで見る原爆ドームとは少し違いました。原爆が落とされた所から近いのによく残っているなと思うと同時に、気持ちが暗くなりました。その後、原爆の子の像にみんなで折った折り鶴をささげた後、慰霊碑に花をささげました。その後追悼平和祈念館に行き、亡くなった方のことや、八月六日に曙部隊はどんなことをしたのか、見たのかという動画を見ました。

公園から出て広島焼き作りを体験し、とてもおいしく作ることができました。

この広島派遣に参加して学んだことは、原爆のおそろしさ、戦争のこと、平和のことについてとても学ぶことができました。また、思ったことは、新しい友達ができてうれしいことと、このような体験をできて本当に良かったなと思いました。これからは、この体験で学んだことを忘れずに、みんなに広めていこうと思います。貴重な体験をありがとうございました。



広島で学んだこと

東城陽中学校 1年 桐 由依奈

一九四五年八月六日八時一五分。広島に原爆が投下されました。今日は、七九回目の平和記念式典でした。去年の私はあまり深く思うことはなかったけど、今年の私は違います。

七月二五日。私は広島派遣団として、広島に向かいました。バスの中では、初めて会った人達と沢山話しました。初めての人ばかりで緊張しましたが、みんな明るく話しかけてくれました。

一日目は、平和記念資料館へ行きました。沢山の写真や展示物を見てみると、心がぐつと苦しくなりました。

八時一五分で針が止まった時計、熱線によって溶け、中身が黒焦げになった弁当箱など色々な物が展示されていました。そして、展示物と一緒に置いてある説明文には、家族の思いや、持ち主が死ぬ前の状況などが書かれていました。この展示されている物一つ一つに家族の辛い心情や「もう戦争は絶対にしてはいけない。」という強い気持ちが込められて「平和記念資料館」が作られていることがひしひしと伝わってきました。火傷によって目が開かず治療してもらっている人の写真や、黒い雨にあたり、髪が抜けた兄弟の写真、戦争は本当にあったのだと実感させられ、私は言葉を失いました。

その後に、被爆者の方からのお話をうかがいました。被爆者の方の話を聞いていると、黒い雨の放射線の影響に今も苦しんでいました。私は爆風や熱線を防げたとしても放射線によって、戦争が終わって何十年も経ち、そして、これから先の未来まで苦しめられるの

だと知り、原爆の恐ろしさをまた一つ感じました。

二日目は「平和記念公園」を見学しに行きました。「原爆ドーム」は、教科書やテレビで見たことのある形のまま残されていました。レンガの壁は所々壊れていて、窓は全てガラスのない状態でした。爆心地にも行きました。普通の平和な街でした。昔もこのような光景が広がっていたと思うと、昨日の写真を思い出し、より悲惨さが実感できました。

大きなパネルに老若男女問わず、次々と映し出されていく被爆した人達の顔と名前をどう言葉にしていかわからずにいました。

私はこの広島派遣団を通して広島で起こった出来事を知り、そして、その事を沢山の人に知ってもらえるように努力したいと思いました。今ある平和がとても素晴らしいものだと言うこと、そして、私の周りに、世界に、同じ考えの人が増えていって、戦争や原爆がこの世界から無くなっていけたらいいなと思いました。そのために、私には何ができるのか考えていきたいです。

戦争の悲劇と平和への思い

東城陽中学校 1年 鈴川 千晴

今回、なぜ広島派遣団に参加したかという理由は、学校の授業やテレビ番組で戦争や核兵器のことを知り、このことをよく学びたいと思ったからです。

最初の一日目は平和記念資料館を見学し、中には原爆が投下され

た時の人々の言動を書いていたたり、当時の服や写真などが置かれ、悲惨な出来事を物語っていました。そこで印象に残った展示物が2つあり、1つ目は原爆が投下された後の広島風景の写真です。建物がほとんど崩壊し、あたり一面が瓦礫になっていて、とても広島風景とは思えなかったです。2つ目は人の影がある階段です。人影は階段に座っていた人が原爆の熱線で影になった部分が残ったと考えられているらしく、人が一瞬にして跡形もなく消えてしまったと思うと原爆の威力が高いことがよく分かり、印象に残っています。他にも火傷を負ってしまいケロイドという皮膚になってしまった人がいることや、原爆の大量の放射線を浴びてしまい白血病になってしまった人達がいたということも平和記念資料館で知り、原爆の恐怖を感じました。

二日目は原爆ドームを見学しました。原爆ドームは崩れているところが多く、焼けたせいなのか黒ずんでいる外見でした。原爆の恐ろしさをこの建物も物語っているということがひしひしと伝わりました。その後、広島平和記念公園の原爆の子の像に折り鶴を捧げ、慰霊碑に花を捧げました。

そして、追悼平和祈念館を見学しました。そこには被爆者の遺影のコナーがあり、少し検索しただけで多くの人たちの写真が出てきて、原爆の被害により亡くなってしまった人が大勢いて、戦争は多くの人々を不幸にするものだと思います。

私は広島派遣団で広島に行き、これまで知らなかった戦争や核兵器について知ることができました。この広島に投下されたような核弾頭は世界に約一万二千五百二十発もあるらしいです。今なお、核によるミサイル開発を進めている国もあり、いつかは戦争で核兵器

が使われてしまう可能性もあります。なので、広島原爆の悲劇を二度と繰り返さない様に世界の人達にこの出来事を伝えていき、次の世代へと伝えていくことが大切だと思います。

今回は、広島派遣団の事業に参加して、多くの貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

世界の戦争の恐ろしさ

東城陽中学校 1年 中 悠楽花

私は原爆ドームにいき、思ったことや感じたことは命の大切さについてです。戦争はなんのつみもない人をきずついたりしています。

あらためて戦争を考え直してみました。これは国が決めたことであり、なんの議論にもさんかしなまま亡くなってしまった人がたくさんいます。被爆の話を書いて、原爆はどれだけおそろしいかが分かりました。3000度もの高温の熱線によって、人ではありえないほどのやけどを負った人がなん万人もいた中、今も世界かくちで戦争があることをほんとうにゆるせないことだと感じました。ポロポロにやけどげたじてんしゃやふくを見て、言葉が出ませんでした。わたしたちがへいわなくらしをしているその過去には、こんなに残酷なことがあったなんて、少ししか考えていませんでした。

でも自分たちにはかんけいなどの考えをしている人はとってまはずかしいと思いました。なぜならとうじでは、黒い雨などがど

んな物だとも知らずに食べていた人もいました。そして今、黒い雨が自分たちの命に影響を与えていることを知ったのは、原爆をうけて亡くなってしまった人からおそわった事だから、自分たちに関係ないことはいっさい無いと思います。

私は、この命をかんたんにうばってしまう戦争が少しでも治まっていくことを心から願っています。そして、戦争で亡くなった人がゆつくりと安らかに眠れるように心から強く思っています。そしてこの話をできるだけ多くの人にも知ってもらえるように、写真などを見せて自分なりに戦争のこわさをひろめました。

私は、1日でも早く平和な世界がきて戦争がおわることを心から願っています。

戦争がもたらした恐ろしさ

奈良女子大学附属中等教育学校 1年 清水 和花

今回、平和のための小中学生広島派遣団として広島に行くまで、学校の授業や先生の話の中でしか原子爆弾との接点はありませんでした。原子爆弾が怖いということは知っていましたが、今回広島に行って、原子爆弾やその怖さについてより深く知ることができました。

平和記念資料館に入ったとき、とても多くの人が来館していることに驚きました。奥へ進んでいくと、そこには古くてビリビリに破かれたような服やドロドロに溶けた鉄の弁当箱が展示してありまし

た。説明のところには私よりも年齢の低い子が被爆して亡くなってしまったということが書いてあり、とても暗い気持ちになりました。

また、皮膚が溶けるほど高温の爆風や熱線であったこと、火の手から逃げ場を失ってしまつて亡くなる方がいたこと、爆風や熱線から逃れても放射線が空気中を漂っていて被爆してしまうこと、今も原子爆弾の影響を受けて病気で苦しんでいる人、おびえている人がいるということを、語り部の被爆者の方から聞きました。

私はこれらのことを見たり聞いたりして、とても胸が痛くなりました。何の罪もないたくさんの人達の人生を、たった一発の原子爆弾は消し去ってしまったのだと思いました。戦争や爆弾によって人を苦しめたり悲しませたりすることが二度と起きないように、私は今回語り部の方から聞いた話や資料館で見た原子爆弾の恐ろしさを多くの人に発信し、伝えていきたいと強く思いました。広島や戦争のことについて関心を持ってもらい、原子爆弾の恐ろしさや戦争の怖さ、そして今ある平和な日常の大切さを多くの人に感じてもらいたいと思います。

実際に原子爆弾を経験した方がどんどん減っていると聞きました。これからは、私が「伝承者」として、語り部の方から聞いた話を語り継がないといけないなと思いました。小さな力ではありますが、多くの人が話を伝えていくとやがて大きな力になります。まずは友達から話していきたいと思います。被爆者の方がおっしゃっていた「平和はあるものではなく築くものだ」ということが印象的でした。自分の目で見たり聞いたたりした貴重な体験をこれから大切にしていきたいと思いました。

広島派遣団に参加して

城陽中学校 2年 石原樹 桔

私は友達に誘われて、広島派遣団に参加しました。広島は、本当に昔原子爆弾が落とされたのかというくらい栄えた町でした。今回の広島派遣団では、原爆ドームに行ったりなど二日間の間でたくさんの予定がありました。その中でも私が個人的に一番印象に残っているのは、被爆体験者の講話です。被爆者の講話は、聞いていて非常に興味深いお話で、教科書やインターネットのサイトであんまり書かれていないような、どんな感じで被害にあったかとか当時の様子を直接聞けました。

お話を聞いて、私はとても切ない気持ちになりました。原子爆弾が落ちてたくさんの方が亡くなりました。いきなり空が真っ赤にそまって、一瞬で近くの人が死にました。そのことに対し私は、「なんでこんなかわいそうなことするんだろう、誰も幸せにならないのに、原子爆弾でたくさんの人を殺したつみはいったい誰にあるんだろうか」と考えました。被爆体験者は最後に「このような過ちは二度とくりかえさない」とおっしゃって非常に感心しました。今回の講話で聞いた内容を私たちより後の代に、伝えたりして絶対に忘れないようにしたいと思います。

私たちは二日目に広島平和記念公園で、原爆ドームや原爆死没者慰霊碑に行つて、折り鶴と、とてもきれいなお花を捧げました。折り鶴を捧げるときに、他の人たちが作った折り鶴がずらりと並べてあつて、とてもきれいで感動しました。その折り鶴の中に日本以外

の国の人を作ったものもあつて、心があつたくなりました。私たちは他にも、近くにある追悼平和祈念館に行きました。中には原子爆弾で亡くなった人たちの顔写真と名前が書かれていました。原爆ドームは、鉄骨がきれいに残っていて形は保っているけど、瓦礫などが下のほうに積もってたりして、原爆が落ちた後の様子が、まだそこだけ残ってるみたいで少し寂しい感じがありました。

昼ごはんは広島で有名な広島焼き（モダン焼き）を作つて食べました。作り方も特殊で具材と生地を混ぜずに焼いた生地の上に、キヤベツとか、焼きそばをのせてひっくり返すみたいな、いつもたべている関西のお好み焼きと違って新鮮な体験でした。

今回の広島派遣で、色々新しく知ったり、体験をできたし、前よりもっと広島に対して興味を持つようになりました。また夏休み中や機会があれば家族と一緒に広島に行きたいです。

広島に行つてみて感じた事

城陽中学校 2年 芹ヶ野 将 英

私が広島派遣団に参加した理由は、家族に人生で一回は行つた方がいいよと言われていたので、いい機会だと思ったのと、戦争と言うものを知っておいた方がいいと思ったからです。

広島インターチェンジを降りてしばらくしてから思った事が、終戦から七十九年でもよくここまで町が栄えたなということで、そのことに驚かされました。本当にこの町に原爆が落ちたのかと思うほど

覚えていました。そして次に広島平和記念資料館に行くと、そこにあつたのは悲惨の一言です。中でも一番印象に残っているのは被爆された方の写真です。その写真を見てるとなぜか胸が締め付けられるような感じになりました。そしてその後、被爆者のいさおさんのお話を聞かせていただきました。そのお話では、広島に投下されたりトルボーイについて聞かせてもらいました。あとは原爆が落ちた事によって降った雨、黒い雨についても聞かせてもらいました。なんと、いさおさんやそのご友人方があの黒い雨を何か分らないまま、その雨をお飲みになったと聞いた時に、私はおどろきました。その中でも自分が一番おどろいたのは、原爆によって亡くなられた方たちを、近くにある谷に落として、そして上から油を注いで火を投げて火葬したという事です。おそらくそれほどまでに亡くなられた方が多かったという事だと思います。そして最後に人生という物を教えてもらいました。この話を聞いた時にひどく心に来る物がありました。なぜ人は生まれ、なぜ生きているのかを教えてくださいました。

そして、二日目になり、原爆ドームを見に行きました。私が原爆ドームに行つて思つた事はこんなにも頑丈そうな建物が一瞬で粉々になったとは、ほんとうに想像がつかないと思いました。しかもこれを人が直接くらつたとはほんとうに想像がつかないくらい原爆は危険な物なんだなと思いました。

私が広島派遣団に参加し、原爆や戦争はおそろしく、人の幸せをうばいしかも人から大切な人、物をうばっていくと、ものすごく感じました。もう二度とこのような事が起こらないように後世に伝えていき、我々もこのような未来にしないようにしていこうと思いま

した。このような貴重な経験をありがとうございました。

広島に行つて感じたこと

城陽中学校 2年 山内海風

僕が「城陽市平和のための小中学生広島派遣団」に参加しようと思つたのは、友達に誘われて、広島に行つてみたかったからという軽い気持ちからで、正直少し戦争の恐ろしさを甘く見ていました。ですが、実際に広島に行き、一日目は資料館などで想像もつかないほど痛々しく、悲惨な資料を見て、改めて戦争や原爆の恐ろしさを知り、これまでの自分の甘い考えを、改めないといけないなと思いました。

また、被爆者の方の講話を聞いて、放射線による後遺症について知りました。放射線は、直接爆発を受けた人でなくても黒い雨によって浴びてしまうことがあると知り、とても恐ろしいなと思いました。講話の中で特に印象に残ったのは、「自分の病気が悪化してこの講話が最後の講話になるかもしれない」とおっしゃっていたことです。その言葉の中には自分が死んでしまっても戦争を知らない世代に戦争を伝え、この世界から戦争を無くしていきたいという覚悟を感じました。それは本当にすごいことだなと思いました。一日目のホテルでは夜景がとってもきれいで、アイスを友達と食べたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

二日目は原爆ドームに行きました。そこで原爆ドームは原爆が落

とされてから建てられたものではなく、原爆が落とされる前からあつて、原爆によって半壊してしまつた建物だということを知りました。そして、建物の保存に「恐ろしい記憶がよみがえつてしまう」という反対の意見が沢山あつたのに建物の保存がされたのは、当時のことを忘れずに戦争の恐ろしさを伝え、戦争を無くしていきたいという当時の人の強い思いが表れているなと思いました。

話は変わりますが、広島風のお好み焼き「広島焼き」を知っていますか？二日目のお昼に広島焼きの体験をしました。広島焼きは、京都のお好み焼きとは少し違い、とても新鮮で、楽しい体験をすることができました。

僕はこの二日間の広島派遣団で学んだことを家族や友達、さらに戦争を知らない次の世代にも伝えていき、戦争のない一人一人の平和が保証される世界にすることに少しでも貢献できるようにしたいです。本当に有意義な二日間だったと思うので、また機会があれば参加したいと思います。最後に今回引率してくださった市役所の皆様、とても勉強になり、楽しい二日間を本当にありがとうございました。

平和だった日常の変化

城陽中学校 2年 大西 莉 緒

私が広島派遣団に参加しようと思ったきっかけは、動画などで広島
島の原爆を知り、実際に資料館へ行き、自分の目で見てより戦争を

深く知ろうと思ったので参加しました。

一日目は、平和記念資料館へ行きました。ここでは、広島に原爆が投下された時の再現映像を見たり、被爆された方々の衣服などが展示されていました。この時に、燃えた服を見て、やけどを負った人達を想像すると、とても胸が苦しくなり涙が出そうになりました。他にも、全身にやけどを負った人、放射線を浴びて辛い思いをしている方の写真を見て、改めて戦争の恐ろしさを知りました。

また、実際に被爆された方のお話を聞きました。この方は幼い頃に被爆され、お母さんとお姉さんが亡くなられたそうです。この時でも現在でも悲しい思いでいっぱいなのに私達のためにお話してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。このお話を聞いて、原爆は本当に恐ろしいし、いつか戦争のない平和な日常、世界を目指したいと思いました。

二日目は、原爆ドームに行きました。これを見た瞬間、思ったことがあります。それは、燃えて真っ黒になった建物の中にたくさんの方がいて、急に原爆が落ちてきて、そこから逃げようとしていたのかなと思いました。もし私達が住んでいるところに、原爆が落ちてきたと考えると、本当に怖いし、焼き尽くされた街を見たら、これは本当に私達の街なのかと考えてしまうかもしれません。被害に遭った方々は相当苦しかったのだと思いました。

その他に、原爆の子の像に折り鶴を捧げました。そこにはたくさん
の鶴が捧げられていました。これを見て、たくさんの方が平和を願っているのだと思いました。私は、鶴を作る時に、一つ一つを大切に折り、二度とこのような悲惨な出来事が起こらないようにできたらいいな、という気持ちを込めて折りました。

広島派遣団に参加して、今戦争している国があるけれど、二度と戦争を起こさないということは簡単ではないし、不可能かもしれない。けれど、一人一人が平和に対する強い気持ちを持てるようにしていけたらいいなと思いました。

豊かな街を壊すことがありませんように。

平和の種を花に

城陽中学校 2年 松浦花緒

私が広島派遣団に参加させていただいて衝撃的だったのは、やはり、平和資料館での、私達が経験したことのない光景を示した沢山の資料でした。どれもが痛ましく、悲惨で、本当に現実起きた事なのかと目を疑う写真や絵、また、生前、私達と同じように笑う人達の写真等を見て、途中で見ていられないと思ってしまうくらいに悲しみと衝撃、「私達と同じように幸せに暮らしていたはずなのに」という想いを持ち、原爆の恐ろしさと、戦争はやってはいけないということを改めて知らされました。

そして、私がこの二日間で体験したことの中で一番心に刻まれたのが、被爆者のお話でした。お話を聞くまで私は、「もしもこの先百年の間で、全世界がもう二度と戦争をしません。とばかりと起こさなくなつて、世界の誰もが戦争等に恐れることなく平和に暮らせるようになったらいいよね」と平和を唱えるばかりでした。でも、被爆者の方は、「戦争はなくならない。この世界の一人一人が、『戦

争をやめよう』という心を持たない限り終わらない。」ということを抑っていました。私はその言葉を受けた瞬間、人として一人一人が感情や考えを持つて、この世界で共生することの難しさと、この世界を平和に導くためには想像以上の時間が必要であり、唱えるだけではいけないんだということに気付かされました。

また、同じく被爆者のお話の後半で、「戦争をなくすためには受け継ぐことが大事なことの一つなのですが、近い将来、被爆者の数はゼロになってしまうのです。」というようなことを仰っていました。そのことから、被爆者の方達が私達に託したものは、体を張って戦争を止めに行つてほしいというような願いじゃなくて、「過去の日本に起きてしまった戦争、たった一つの爆弾が生んだ悲劇を学んで知り、そしてそれを忘れないで欲しい。また、私達が伝えてあげることの出来ない世代の人達に戦争の恐ろしさを受け継いで欲しい」という想いなんだと気付きました。たったそれだけのことで、誰かの気持ちを変えることが出来たり、私と同じように他の誰かも何か大切なことに気付いてくれるかもしれないと思うと、この先にはちゃんと平和の希望がみるんだと感じて嬉しくなりました。

少し重くなつてしまいましたが、この二日間、このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。被爆者の皆さんと広島がプレゼントしてくれた平和の種を、いつか大きく花が咲くことを祈つて、これから生きる私達が大切に育てていこうと思います。

広島に行つて

城陽中学校 2年 渡邊 友麻

私が今回の広島派遣に応募した理由は、私が小学校のときに、歴史の時間に広島の実爆のことをやりました。そこから二年が経った今だけど、また中学校でも歴史で原爆、戦争のことはやると思いました。だから、それならいち早く現地に行つてみたら原爆のことを詳しく、深く知ることができるのではと考え、この広島派遣団に応募しました。

そして、実際に足を運んでまず一日目に行つた原爆資料館で、行く前、原爆は確かにダメだけどまだマシなものだろうと私は想像してました。でも実際に資料を見ると、想像していたよりも何倍もの衝撃が走りました。それは、原爆がもたらした影響です。レンガは崩れ、焼け野原になった後の広島市内の写真は、信じられないほど、建物は崩れ、色彩鮮やかだっただろう景色も、モノクロのように色を失っていました。その写真をみているだけでも苦しくなりました。その後の被爆者の講話では、原爆の影響が今でも続いているという苦しさについて知りました。原爆の影響がいつ、どのような形で表れるか、放射線が被爆した自分の体の中に傷をつけ、いつ病気になるのか、それに約八十年たった今でも怯えなければいけない、その苦しさは計り知れないと思いました。

私は今回の広島派遣に参加し、実際に今の広島に足を運んで思ったことは、やっぱり戦争は、争いは繰り返してはいけないということ、それを改めて実感しました。また、今できることは今挑戦すると

いうことを感じました。いつ、世界の形が変わるか分からない世の中だからこそ、挑戦する。その大切さを今回の広島派遣で感じられました。次は自分たちが、この歴史を周りの人たちに伝えていきたいと思いました。また、今があることが当たり前ではないということ、それを色んな人に伝えたいです。

今回の広島派遣団に参加できて貴重で良い経験をすることができました。本当にありがとうございます。



編集・発行 城陽市 企画管理部 秘書広報課

〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16番地、17番地

電 話 0 7 7 4 - 5 6 - 4 0 5 0

F A X 0 7 7 4 - 5 2 - 1 1 7 5

U R L <https://www.city.joyo.kyoto.jp/>

E-mail heiwa@city.joyo.lg.jp

